

第198回地震予知連絡会重点検討課題について

タイトル「東北地方太平洋沖地震に関する検討（まとめ）」

趣旨説明者 東北大学 大学院理学研究科 松澤暢

2011年3月11日にM9.0の東北地方太平洋沖地震が発生したことを受けて、地震予知連絡会では、第190回地震予知連絡会以降、重点検討課題として、この地震の特徴や発生原因等について検討してきた。第190回、191回、193回では「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と題して、3回にわたってこの地震についての検討が行われた。また、第192回、194回、195回では「プレート境界に関するわれわれのイメージは正しいか？」と題して、南海トラフ・南西諸島海溝、千島海溝、相模トラフ・首都圏直下におけるプレート境界に対する現状の考え方について整理・検討を行った。196回では内陸での誘発地震も取り上げ、また197回では「世界の巨大地震・津波」の検討を行った。さらに、この間に東北地方太平洋沖地震についての新たな知見が得られれば、「地殻活動モニタリングに関する検討」の中で検討を行ってきた。

第198回地震予知連絡会 重点検討課題の検討では、これまでの議論や検討結果を踏まえ、このような地震がなぜ・どのように発生したのか、また今後、このような巨大地震の発生に備えるために何をどのようにモニタリングすべきかについて、本震発生から2年を経過した現時点でのまとめを行うことを目的とする。